【授業科目】健康教育論　　Health Education

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
後藤 由紀、大谷 喜美江、佐藤 優子	2 年次 後期	選択	1	15	講義 演習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／ヘルスプロモーションの実践に必要な個人因子及び社会環境の視点を取り入れた健康教育の方法、効率的で実践可能性のある健康教育について学習する。健康教育プログラムの企画・立案・実施・評価方法について、病院・施設・地域等で実施される健康教育を企画運営する上での技術の習得をめざし、演習を中心に展開する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／各教員から総評コメントを公開する。
実務経験に関する授業内容	健康教育について行政、産業、病院での臨地経験を持つ教員が、看護職として健康教育を実施する際に必要な知識と技術について講義および演習によって教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①健康行動に関する理論を活用して、健康の維持増進、疾病予防・重症化予防の管理ための健康教育の企画書の作成ができる。 ②講義を通じて、個人・集団の生活や文化的背景、個人および地域の特性に応じた健康教育のプロセスと健康教育を実施する上で必要となる知識・技術が習得できる。 ③個人や集団の特性に応じた健康教育の企画をすることができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	**事前・事後学習** 事前学習：教科書の該当・関連個所、随時紹介する参考図書等を読み、まとめておく。（各 30 分） 事後学習：同日の学習内容を振り返り、整理しておく。（各 30 分） 図書館に下欄の参考書がそろっているので、学習の参考にすること。

授業計画	1. 授業ガイダンスとグループワーク説明：ヘルスプロモーションに基づく健康教育の理念,健康教育に用いる様々な理論とモデル（1）（健康信念モデル、自己効力感、動機付け理論、変化ステージモデル等）	後藤
	2. 健康教育に用いる様々な理論とモデル（2）と健康教育実施に向けた準備（1） 行動変容のための集団学習理論とヘルスコミュニケーション 手順および評価を含む企画書・指導案の必要性とその構造	後藤
	3. 健康教育実施に向けた準備（2） 健康教育における PDCA サイクルの実際	後藤
	4. 健康教育のための集団アセスメントと企画書・指導案の作成①（GW）	後藤・大谷・佐藤
	5. 健康教育のための集団アセスメントと企画書・指導案の作成②（GW）	後藤・大谷・佐藤
	6. 健康教育のための指導案・媒体の作成①（GW）	後藤・大谷・佐藤
	7. 健康教育のための指導案・媒体の作成②（GW）	後藤・大谷・佐藤
	8. 企画書・指導案・媒体の発表	後藤・大谷・佐藤

評価方法 評価基準	筆記試験 50%、ワーク成果・参加態度（40%）、授業態度（10%）		
教科書	標準保健師講座２「公衆衛生看護技術（第5版）」医学書院（公衆衛生看護活動論Ⅰで使用）	参考書等	新しい健康教育　保健同人社 健康行動理論の基礎　医歯薬出版(株) 健康行動と健康教育　医学書院
学生への 助言等	看護職は、様々な環境で生活するすべての人々を、包括的かつ継続的にアセスメントし、個人および集団が自律的に自身の健康の保持・増進する力を高めていけるよう支援していくことが求められます。本科目では、全ての領域で実践が必要となる健康支援技術の一つである健康教育の基礎的考え方と企画までの具体的なプロセスを体験的に学んでください。 対象となる人々の「主体性」を引き出すことを視野に入れた支援の学習ですので、学生の皆さん自身も主体性を持ち、積極的に参加してください。		